

インパクト持って伝え

左手は腰に添え、右腕を伸ばして人差し指をまっすぐ突き出す。背筋を伸ばして姿勢を整え、魂を入れる。そして、右手を耳元まで振り上げ対象物に向かって大きな声で「よし」と振り下ろす。「指差し呼称は安全行動の原点」と話すのは、キリンググループロジスティクス（KGL、加藤元・社長、東京都中野区）物流管理部安全・品質・環境室の鶴田秀樹氏（42）。

同業他社からも「ぜひ講師に」と声が掛かるほど、岡義人室長（55）は「鶴田をどんどん使って欲しい。それが業界全体のレベルアップにつながる」と後押しする。

KGL 物流/管理部安全・品質・環境室

鶴田 秀樹氏



鶴田さんの父、義高さん（72）は工場からキリン製品を運ぶ大型トラックドライバーだったので、夏休みなどに助手席に乗っている人など

「指差し呼称は安全行動の原点」と鶴田氏

数多くの方に安全訴求

推進委員」を務めた。「入社後数年間は自分の安全を守るので精いっぱいだった。が、徐々に周囲の安全にも目が届くようになった」と振り返る。安全に対する高い意識は、大きな事故無く大黒柱として家族を支え続けた父ゆずりだ。

その後、環境安全室に異動し、安全・環境、廃棄物関係の業務を務めた。2010年に品質保証室に異動し、品質管理の国際規格ISO9001や工場衛生環境を担当。13年1月から3年間は、キリンの研修センター「テクノアカデミー（現ものづくり人材開発センター）」で勤務。テクノアカデミーでは、キリングル

「入社後数年間は自分の安全を守るので精いっぱいだった。が、徐々に周囲の安全にも目が届くようになった」と振り返る。安全に対する高い意識は、大きな事故無く大黒柱として家族を支え続けた父ゆずりだ。



「指差し呼称は安全行動の原点」と鶴田氏

西井」（鶴田さん）で、漫才から学んだ話術で受講者を引き込む。鶴田さんは「研修では、安全のポイントを分かりやすく、インパクトを持って伝えることを常に心掛けています。研修参加者の心に刻まれるような内容なら、きっと安全を強く意識して行動してくれるはず。そして感じたことを仲間と共有してくれたら、なおよらしい。もっと工夫を重ね一層分りやすくしたい。安全確保は自らの命と家族の生活を守る。事故は誰も幸せにしない。会社の垣根を越えた業界全体のため、数多くの方に安全の訴求を行いたい」と望んでいる。（高橋朋宏）